

## 小学校に手作り雑巾を寄付



↑利用者二人が学校訪問して手渡しました。

瑞穂小学校にデイ利用者が縫った雑巾15枚を寄付、利用者から直接児童に手渡してもらいました。

『頑張って縫ったのでこれで学校を綺麗にしてください』と手渡すと、『頑張って掃除します』と児童代表から、返してくれました。

利用者の一人は自分の息子も卒業した学校の校内にひさしぶりに入り『懐かしかった!』と嬉しそうに話しておられました。

## デイ高校生アルバイト

### この春進学!

これまでアルバイトとして、デイサービスに来てくれていた高校生の上田さんと、向井さん。この春から二人とも、医療・福祉関係の学校に進学されます。

これまで多くの利用者さんと関わり、入浴介助なども経験してもらいました。これから夢に向かって次の一歩を進み始めている二人にエールを送るとともに、これまで経験してきたことも活かして、勉学に励んでもらいたいと思います。



デイのレクリエーションの様子。写真左が向井さん→

### NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53

■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017

■e-mail: info@cloverservice.or.jp

■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

### クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1

■TEL & FAX (0771)88-0138

■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR



## 〈第25回〉インドの映画と推理小説(その2)

**有田誠**(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家  
西ベンガル州は1977年から2011年まで共産党政権  
だった。写真は77年当時の共産党幹部たち(筆者撮影)

者が出た。

アヘンの利益で、上海を拠点とするやぐざ青幣チンパンと紅幣ホンパンの抗争は、カルカッタの中国人街にも波及した。

ホームズの友人ワトソン

医師は、アフガン戦争で肩を撃たれ負傷している(第一作『緋色の研究』一八八七)。

ビルマからアフガニスタンに至る広汎なインドの地域で、イギリスは略奪と殺戮をつづけた。

コナン・ドイルのシャーロック・ホームズもの第二作『四つの署名』(二八九〇)の始まりは、ホームズがコカイン注射をうつ描写から始まる。そして最後の二行は、「僕にはコカインがあるさ」と、その瓶に手をのばすところで終わる。

当時のインドでは、イギリスが小麦畑をアヘン栽培地に切りかえ、大量の餓死

まれのヴァシーム・カーンの一冊が早川ミステリーに入っている。二人ともロンドン生まれで、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスを卒業した。

### アビール・ムカジー

一九一九年からのカルカッタを舞台にした推理小説五冊中、田村義進よしのぶ訳で三冊が出た。

### 『カルカッタの殺人』

(二〇一九邦訳)

時代設定は一九一九年。第一次世界大戦終結翌年の事件である。

主人公の警部サム・ウィングダムは大戦に志願し、フランス最前線で被弾する。生死をさまよう治療に使われたモルヒネで麻薬中毒になってしまう。従軍中に妻はスペイン風邪で死亡した。

スコットランドヤードの敏腕刑事だったが、生きることに絶望。インドで警視總監をしている戦場での上官だったタガート卿に誘われ、カルカッタに赴任する。

若いベンガル人の部長刑事サレンドラナート・バナールジーが部下となる。彼はカルカッタ名家の出で、ケンブリッジ出身である。エリートコースを拒否し、帝国警察に入る。そのため、家族や一門とは断絶状態になっている。

この二人で、以後シリーズ化される。

インド人街で、マコーリーベンガル財務局長が惨殺される。

反英組織のリーダーが、軍情報部H機関に逮捕される。警察の二人が、軍のドーン大佐に妨害されながら、

犯人を追い込むというもの。真相がゆゆしきものゆえ、当局は隠蔽してしまう。

以下このシリーズは、読者に真相は明かされても、政治的判断で処理される結末ばかりである。

シリーズの常連が、ここを出揃う。ユーモアと同時に支配者イギリスと被差別者インドの葛藤と緊張が全編をおおう。CWA(英国推理作家協会)ヒストリカルダガー賞受賞。

### 『マハラジャの葬列』

(二〇二二邦訳)

一九二〇年、カルカッタで藩王国サンバルプールの王太子が暗殺される。それもウィングダムとバナールジーが同乗していた車で。バナールジーはケンブリッジで、王太子とは同時期に学んで



カルカッタ(現コルカタ)にて筆者撮影(1977年)

いた。

イギリスは、インド支配が年々困難になるなか、藩王院という合議体に五百以上ある藩王国を半強制的に参加させようとした。それに反対の王太子が殺されたのである。

インドは全てイギリスの直轄領ではなかった。一定の自治権のある半独立国が藩王国で、インド全体の面積の半分近くを占めていた。

二人は休暇と葬儀参加の名目で、サンバルプールに行く。

犯罪の真相はつきとめるが、闇の中に封印されることになる。

ラタヤートラの祭りをクライマックスに据える。巨大なジャガンナート神の山車が何千人もの手で引かれる。

イギリス人は、この辺りを混同し、かつ訛ってジャ

ガーノート(Juggernaut)という語を作ってしまった。サンダル、シャンブー、バングローなどもヒンズー語が英語化したものである。

## 『阿片窟の死』

(二〇三邦訳)

一九二一年、ガンジー指導による不服従運動が拡大、反英独立運動が激しさを増していった。

イギリスはエドワード皇

太子を親善訪問させることとする。カルカッタの歓迎式典での毒ガステロを阻止するスケールの大きさと地みちな捜査が重構造で描かれる。

ドイツは第一次大戦中、一九一七年にフランスのイペールで最初のマスタードガスを使った。土地の名からイペリットガスと呼ばれた。

イギリスも同年、毒ガスの研究を始める。これが本格化するのは三〇年代にはいつてからで、グルカ兵やパンジャブ兵を生体実験に使った。のちにイギリス兵もオーストラリア兵も犠牲者となっている。したがって、この事件の真相は極秘裏に処理される。

もうひとつ、この作品の

面白いところは、ガンジー派の幹部C・R・ダースと妻のバサンディ・デヴィ、スバス・チャンドラ・ボース(現在、コルカタ空港の名前になっている)など、実在の人物が大きな役割を果たす点である。

## ヴァシム・カーン

### 『帝国の亡霊、そして殺人』

(二〇三邦訳)

主人公のペルシス・ワディアはパールシーでインド初の女性警部。ボンベイには、パールシーと呼ばれるペルシャ人が八万人ほどいる。十世紀中頃、イラン東部から移住してきたゾロアスター教徒(拜火教)で、今も鳥葬をする。タタ財閥の創始者ジャムシェドジ・タタ、指揮者のズービン・メーター、クイーンズのフレ

デイ・マーキュリーなどもパールシーである。ペルシスという名は「ペルシャから」という意味。

インドとパキスタンは一九四七年分離独立、インドは五〇年一月、共和国として正式に独立した。この国境の線引きをわずかひと月でやったのは、インドに行ったこともない一介の公務員シリル・ラドクリフだった。二分割されたパンジャブは特に悲惨で、二百万人以上の死者を出し、略奪、殺人などの犯罪が多発した。イギリス外交官の殺人事件は、この状況下で起きる。これもシリーズ化される。CWAヒストリカルダガー賞を受賞した。本格推理ものの傑作である。同じく田村義進訳。

以前連載していた「丹波育児院」の追録記事を  
 附録としてはさんでいます。 一読ください。

## 大雪、業務に大きく影響！

2月8日(土)未明から降り始めた大雪により、  
 デイサービス、訪問サービスともに大きな影響を  
 受けました。

9日(日)朝は、車での移動が困難なほどの積雪  
 であったため、デイサービスを休業せざるを得ず  
 翌10日(月)朝も送迎に大きな影響が出ました。  
 訪問サービスも利用の休止をお願いしたり、ヘル  
 パーの調整を行い、何とかやり過ごすことができ  
 ましたが、久しぶりの大雪、雪かき、業務にてんや  
 わんやした2月初旬でした。



2月9日(日)朝、事務所の様子↑

## 〈賛助会員〉

(有)あさひ堂  
 (株)一谷住宅  
 イン・ザ・ルーム亀岡店  
 上段税理士事務所  
 (株)高木設備  
 たにやま鍼灸整骨院  
 田端輪業  
 (有)土佐寿司  
 (有)永田損害保険事務所  
 (有)西村テレビ  
 ノエビア京都西都販売会社  
 三木歯科医院  
 みづほ電工  
 理容ちどり (五十音順)

## ご寄付ありがとうございました！

地域の方から、デイサービスや、日々の活動に役立つのであ  
 ればと、タオルをたくさんいただきました。

また椎茸の菌と、それを打ち込む原木もご寄付いただいて、  
 利用者さんにその作業をしてもらいました。

地域に根差した介護サービスを掲げている団体として、こう  
 いったご支援をいただけるのは非常にありがたいことです。  
 いただいたご厚意は大切にに使わせてもらいます。

## 編集後記

「バック・トゥ・ザ・フューチ  
 ヤー」三部作が新吹き替え  
 版で放送され、ご覧になった  
 方も多いのではないでしょ  
 うか？ 私もその一人、何度も  
 見た作品ですが、改めてみ  
 ると、1980年代を感じさ  
 せるとともに、その時代から  
 見た未来の姿(現代)との  
 ギャップが見えて楽しかつ  
 たです。実際、車は空を飛ん  
 でいませんし、サイズを自動  
 調整したり、乾かしてくれ  
 るジャケットも存在していま  
 せん ▼実際タイムスリップ  
 できる未来が来るのか、そ  
 れはこの先もアニメや映画だ  
 けの世界だとは思いますが、  
 映画の合間に流れた洗剤の  
 CMで流れた曲を聞いた瞬  
 間、平成初期に舞い戻った気  
 分になりました ▼今井美  
 樹の「PIECE OF MY  
 WISH」ドラマの主題歌と  
 して当時大ヒットしました。  
 まさか令和のこの時代にこ  
 の曲を聞くとは思ってもよ  
 らず、吉高由里子の出演なの  
 に「いつた今は何年？」と  
 思ったほど、印象に残りまし  
 た。同じように感じた同世  
 代の方もたくさんいたよう  
 で、SNSでも「懐かしい！」  
 『当時を思い出した！』『CM  
 の雰囲気と曲が見事にマッチ  
 している！』など多くの投稿  
 を見かけました ▼この曲を  
 知らなかった若い世代の方  
 にも新鮮にうつっているよう  
 で、音楽配信チャートでも上  
 位に急上昇。三十数年とい  
 う時を経て、またヒットの予  
 感すらします。実のところ、  
 私が高校生の頃初めて買ったCDシングルがこの曲で、  
 長くファンを続けてきている  
 一人として、数あるヒット曲  
 の中からこの曲を選んだ方  
 に賞賛を贈りたいと思いま  
 す。見事にタイムスリップさ  
 せられましたから… ▼ファ  
 ツションや、歌、食のブーム  
 など流行は繰り返すよく  
 います。中島みゆきの「時  
 代」でも歌われている通り、  
 時代はまわり、また巡り合  
 うことになるんだなあ。と感  
 じた今日でした。

編集子へ

# 丹波育児院

～辻原光治とその周辺の人々～

補遺

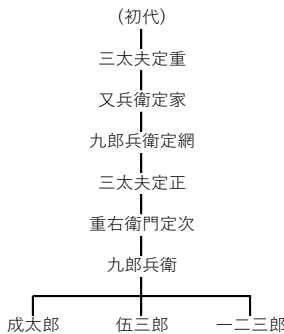
先日(二月三日付け)の京都新聞「丹波偉人伝心」欄に京丹波町保井谷出身の山内成太郎(二八六二～一九三三)がとり上げられました。山内については以前、連載第15回※で紹介しましたが、この機会にもう少し補足しておきたいと思えます。

## 保井谷の山内家

まず、成太郎が生まれた保井谷の山内家の歴史です。

成太郎の祖父重右衛門が『耳孫教訓』という文書を書き残しており、岡光夫『幕藩体制下の小農経済』(法政大学出版局一九七〇)に紹介されています。それによると山内家初代は、

### 山内家略系図



天正年間(一五七三～一五九二)初期に豊臣秀吉に敗れて落人となり、西国から「主従三人従歩かち

京丹波町域で保井谷、栗野、妙楽寺、三ノ宮(一郎)、実勢の村々を所領としていました。

はだし」で「四、五両の金子を携えて」保井谷に来住し、百姓

しかし、定正は「さしたる罪も無かつたのに讒言ざんげんによって「追放にあい、再度帰りがわず、

二代目の三太夫定重は、保井谷で生まれ、二代又兵衛定家は、

この定正の子が『耳孫教訓』を書き残した重右衛門定次で

沢潟、ほうづき、蘭などの作物をこの地に導入し、「鍵かぎを使う

す。他の兄弟五人が父と同罪として追放されたので、末子で、

兵衛定綱は、よく弓を引き、生け花を好む人でした。

ただ一人異母弟だった重右衛門が名跡を継ぎました。

定綱の子三太夫定正の代には繁栄と没落を経験しました。

重右衛門は、親が危機に陥ったのは商品作物や商売に心を

定正は「屋敷を大いに普請し」、近在に「七百石余り買取」るな

奪われたためだと考え、子孫には稲作に専心するようにと『耳孫教訓』を書き残しました。

ど繁栄をきわめ、その名は「国中に隠れなく、福有と器量をもつて

その子が成太郎の父となる九郎兵衛で、万延元年(一八六〇)

以鳴もってり響きました。それまでの「路谷はち」を「保井谷」に改めたともいいます。そして、この

に「揆勢けいせいの襲撃を受けたときの当主です。

時代に旗本島弥左衛門の代官に任じられました。島氏は、現

明治五年(一八七二)時点で保井谷は戸数二九戸、人口一四八

人、田畑合わせて三〇町歩、山林一三町歩という村でした。このうち九郎兵衛は田畑九町六反、屋敷五反、山林五町歩を有し、分家も田畑五町五反を有しており、両家だけで村の半分を占めていました(岡田掲書)。

## 甥の三上次男

九郎兵衛には長男成太郎、次男伍三郎、三男一二三郎、さらに娘一人息子二人がありました。伍三郎は、成太郎が北海道に渡った後、故郷に残って家を守り、三ノ宮村長などを

つとめました。一二三郎は、宮津の三上家へ婿養子に入りま



重要文化財「旧三上家住宅」(宮津市河原)

した。宮津の三上家は、江戸時代に酒造業・廻船業・糸問屋などを営み、宮津藩の御用金を扱った豪商でした。その住まいは現在「旧三上家住宅」として国の重要文化財に指定されており、往時の繁栄ぶりがうかがえます。

一三郎夫妻の次男として生まれたのが東洋学者・考古学者として高名な三上次男です。

三上次男は小学五年まで宮津で過ごしました(一年以上級に後の衆議院議長前尾繁三郎がいた)。

その後、伯父成太郎の誘いを受けて一家で北海道へ渡り、旭川中学、浦和高校埼玉恵をへて東京大学へ入学、考古学を専攻して東大や青山学院大の教授をつとめ、東洋史研究に大きな足跡を残しました。(兄の**一は丹波屋**へ入社しています)

その三上次男の「山内成太郎伯父とわたくし」という随筆



三上次男(1907~1987)

から以下、引用します(『春日抄』中央公論美術出版一八八二所収)。

「記憶に残る伯父は長身瘦軀そうくで松籟しょういをひびかせた孤松のような感じであった。若い時は端麗はくせいであったと思われる白皙はくせきの顔には、風雪に耐え抜いた枯淡な笑みがたまたよい、赤みをおびた頬と白髪とが、さりげなく美しい対照をみせていた。洋服がよく似合った」「父や、父の生家を訪れた兄の話によると、屋敷の構えはひどく大きかったようである。後年、その母屋の一部が園部に移されて公会堂として使われたそうである」「当時の伯父は、すでに第一線を退っていたのではないかと思われる。そうして旭川組合教会の長老として(略)熱心なその

支持者であり、教会での活動はもとより、教会関係の社会事業には常に関係した」「もつとも熱意をこめて打ち込んでいたのは禁酒会の仕事であった。(略)声を大にして禁酒運動を

続ける伯父やその家族に対して、しばしば嫌がらせや脅迫もあった」「伯父の死を知ったわたくしが強いショックをうけたことは、受洗記念に伯父から与えられた聖書に『山内の伯父様、大正十二年十一月五日、相州茅ヶ崎にて歿せられる』と沈痛な字で書きとどめていること

によってわかる。中学五年のときであった。その聖書を、伯父はわたくしに与えるとき、その扉に『谷川に腹洗う蛙かな』という句を記された。あまり上手ではないが、野武士的でユーモラスな暖かさがこもっている。成太郎伯父はそのような人であった」

### 山内家・丹波屋と佐野文子

佐野文子は、旭川で廃娼運動や刑余者の更生保護などに取り組んだほか、戦争中に東条英機の家庭秘書だったことでも知られる人物ですが、丹波屋商会第二代社長佐野啓次郎夫人でもありました。

佐野啓次郎の妹が成太郎の次男英二(のちの第三代社長の妻)という関係でした。啓次郎は大正六年(一九一七)、成太郎に請われて第二代社長となりました。

文子は島根県出身。幼時より利発で、年齢を繰り上げて四歳で小学校に入ったほどでした。明治四十二年(一九〇九)、旭川の医者に嫁いでいた姉のもとへ転居し、小学校教員をへて啓次郎と結婚。しかし啓次郎は大正十年(一九二二)に早逝します。

文子は夫亡き後、廃娼運動に挺身します。遊郭主から刺客を送られたりしながら、命がけで



佐野文子(1893~1978)

娼妓たちを支援しました。

戦争中、文子の活動は国防婦人会へ移ります。その活躍と人柄が中央にまで聞こえ、総理大臣東条英機家の私設秘書に任命されました。東条家では約三年間、書類整理、子供の世話や教育、夫人の相談相手などをつとめ、東条からも「佐野先生」と呼ばれていました。

戦争協力を傾いた文子でしたが、東条が戦犯として処刑された後も罰を受けることなく、旭川へ戻って戦後も多数の公職・団体の理事や会長を歴任しました。昭和五三年(一九七八)、歿・葬儀は旭川市社会福祉協議会葬として執り行われました。

(山下幾雄)